



君は KIMI HA
MORATORIUM
モラトリアム

Ensemble Stars unofficial fanbook
Mika × Shu

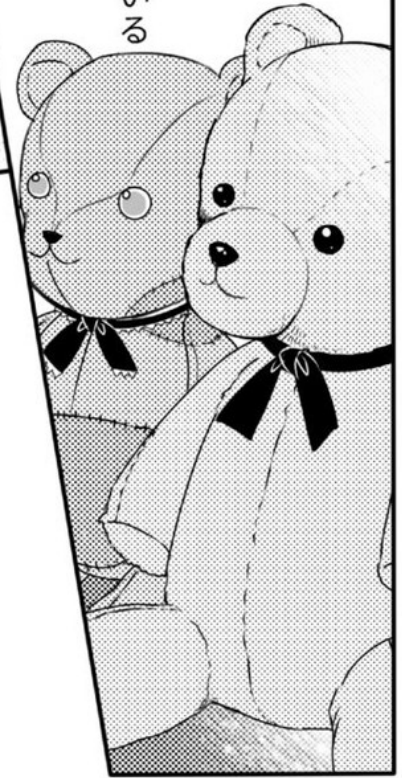
君は KIMI HA
MORATORIUM
モラトリアム
R18 Mika*Shu

君はモラトリアム

2017/12/29 冬コミ発行

スカウト！テディベアに殴られ気が狂いながら気づいたら
出していた3冊目。テディベアの後の二人のお話。
この頃から次の返礼祭はValkyrieでは？？と噂が流れ始め
このテディベア食らった後返礼祭来たら生きていられるだろうかとの
不安と闘いながら描いた。

結局あのテディベアは
お師さんが直してくれて
新しい家族と共に
お師さんの部屋に飾られている



あの後おれは
迎えにきたお師さんに
めいいっぱい叱られた

久しぶりにあんなに
怒られたものだから
それが嬉しくておれは
ワンワン泣いてしまった

その後家にかえって
お師さんと夜どおし
いろんな話をして

今までいろいろ
すれ違ってしまった
気持ちやなんやらを
話し合った



そしたらいつの間にか
外は明るくなっていて

おれたちはその日
学校をズル休み
してしまった

そして
泣き話し疲れて眠る前
彼はおれにこう告げた

どうやら僕は
気づいて
しまったらしい

君への恋心を

どうしたら
よいのだろうか

影片

彼はおれを
一晩中探し続け
明けてゆく空の朝焼けに

ひとり恋心を
自覚したのだと
告白した

…そんな

おれなんかもう
ずっと前から
好きやったんよ！
そう伝えたかったのに

ツ……………あ……………ツ

胸も言葉も詰まってしまうて
ただ彼を強く
抱きしめることしか
できなかった

おれたちは互いに
特別な存在に
なれたのだ

人形師と人形から

家族に

そして恋人に

それからの日々は
忙しなく

おれが体調を崩して
イブイブライブに
出れなかったり

お師さんも無理がたたたり
倒れたりして迎えた
スターライト
フェスティバル

おれたちに奇跡が
舞い降りた



瞬く間に過ぎてゆき

そんな夢のような「夜も

そしておれの
17回目の誕生日



おれたちは

はじめて
結ばれた



スタッフエス前から
体調を崩していた
お師さんは
見事にまた
ぶり返してしまい

翌日はずっと
ベッドと
お友達だったけど

看病を言い訳に
おれは片時も離れず
ずっと一緒に
いることができた





この上もなく
幸せだった

君は KIMI HA
MORATORIUM

モラトリアム

なあ
お師さん



明日お休みやし
今夜…
シテもええ？

…またかね？



んあ…
お師さんが
やだったら
やめる…

む、
また君はそうやって
何でも
僕に委ねる癖を
直そうとしない

んあ…
そや…
た…

んあ…
かにん…

いったらろう



……ッ



君の

好きないように
してみると



いいだろう

今やっている作業の
きりのいいところまで
終わったら
付き合っただけよ

んあ…

二時間後に
僕の部屋へ
おいで

おん



否定しなくなった
というのが
正しいか

何でもまず
おれの意見を聞き
最後には必ず
受け入れてくれる
ようになった

そういや最近
お師さんのノン
聞いとらんなあ

ききたいなあ:
久しぶりに

あの時ちゃんと
話し合ったから
今あまり不安はない

やっぱりまだなんか
くすぐりたい

それに

拒まないのは
夜も同じで

お師さんは決して
おれの誘いを断らない

いいよ

これは全部おれのため
おれの未来のためだつて
わかっているし

おれもあの人の
変化を受け入れつつ
あるけれど



最初に誘ったのは
お師さんだけ
あれはどう考えても

おれのずっと
おさえてた
欲望やらなんやらを
感じとって誘って
くれたんやろなあ

本来そうだったに
二つんぼいよやのに

そのあと
お師さんから
誘ってくることは
なくなったけど

そのかわりどんな
疲れてたとしても
決して拒んだりはず
受け入れてくれる

覚えたてのおれは
それに甘えて
連日彼を誘って
行為に溺れてしま

そのせいで彼は
新年早々体調を崩す
ハメになってしま

元々身体が
丈夫じゃないお人だし
それからは三四日
間を空けるようには
してるけど

それでも一度も
断られたこと
ないもんなあ

おかげで
はじめて結ばれてから
まだひと月半たらず

おれらは
それなりの回数
身体を繋げている

2018

2

ほんまはおれが
自制とかせな
あかんのやるけど

だけど一度でも
抱いてしまったら
それはもう無理だった

あの肌を温度を
知ってしまったら
おれの若い男の部分を
おさえるのは

アカン
おもいだしたら…

ドク…

こういうとき

同じところに
暮らしているのは
やっかいなもので

風呂はいろ…

おれは相も変わら
ず我慢ひとつも
できない出来損
ないだ

ごめんな
お師さん…

あ

せやつた
その前に

ゴム買いに
いかんとやつた。

つないだ
使にやんないし



↑
↑
↑

おんん

は...ッ

あッ

ズッ

おんん



お師さん大丈夫?

……ッ

くらっ?



んあっ

ごめん
聞こえん

抜く?

あぁッ

あっ

ズグッ



あっ……だい……
よ……ぢっ



大丈夫…
だから…

君の
好きなように…
動いていいから…



んあぁ
んなこと
言つてえ!

とかいいながら
君…腰が止まら…つ
ないじゃないか…ツ

…フン

あっ

あんたまた
無理しとるやろっ!

わかつとんの
やで…!

んああつ!!

アッ



フフ：
馬鹿だねえ

！

何も
我慢することは
ないんだよ？



気持ちよすぎて…

おん、

ごめんな

ごめんなつ

とまりんっ

おん、



やってえ…
めっちゃ気持ちええっ

……ッしやあない
やんっ！



あっ

僕で
気持ちよくなって
いいんだ…

もっ

僕の影片…

あぁなんやろ…

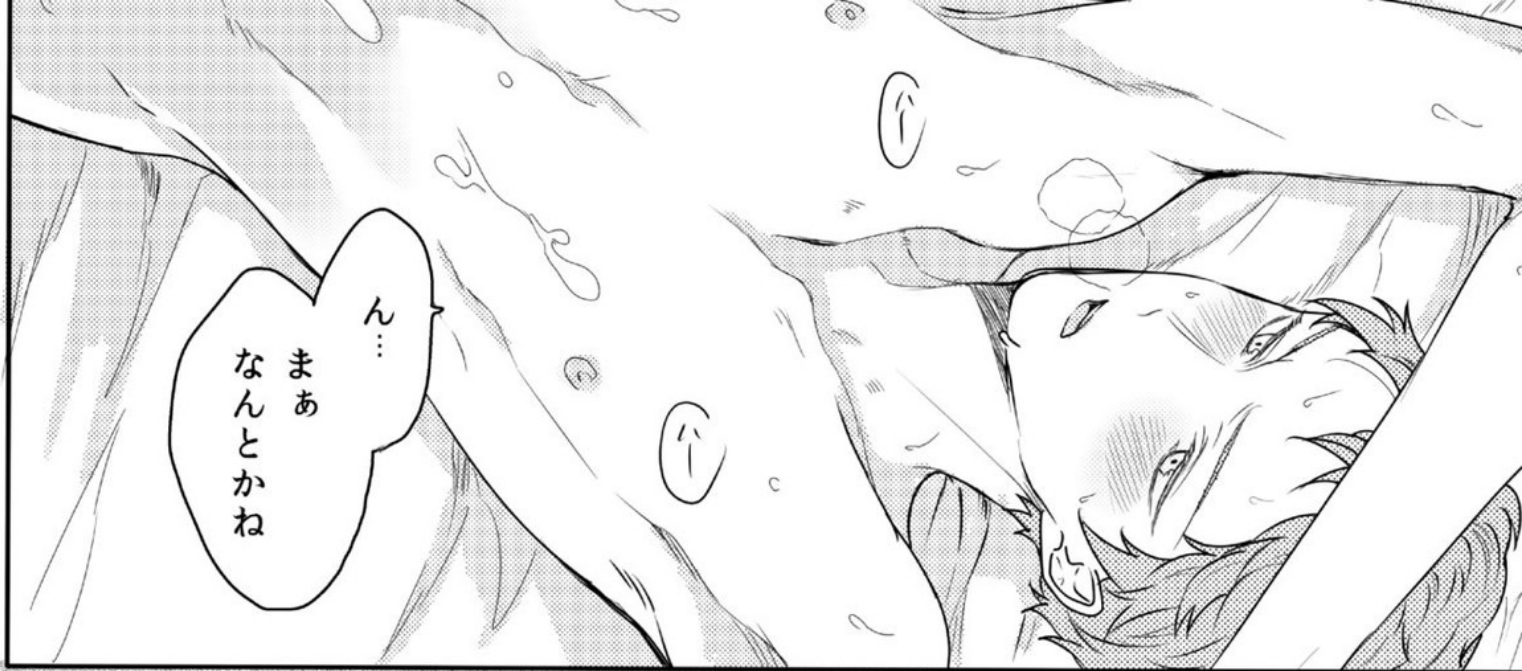
おれに優しいお師さんは

やっぱりまだちょっと



気味…わるいわあ…





ん…
まあ
なんとかね



グシ

今夜は
僕の部屋に
泊まって
いきたまえよ



すぐ身体
ふくさかい
待ってない

……

ねえ
それよりさ



んあ



そんなに
喜ぶことかね

おんっ
めっちゃうれし



いいよ

やったあ
お師さんとおねんねや



えっ

ええのっ!!



僕も朝起きて
君が起きるまで
その麗しい顔を
ながめられるから

共寝は
嫌いじゃないよ



いっつも終わったら
別々に寝るやろ？
ほんまは
さみしかってん

でも今日は一緒に
おねんねやねっ
うれしいわあ



なんやそれやったら
これからは
一緒に！

それだと
お互いゆっくり
休めないだろう

のっ

♡

ええ
そんなこと…

君すぐ
盛るから

んああ…っ



明日は
お休みだからね

特別
なのだよ

！

何がだい？

ズ
ズ
ズ

ちゅーことは
…ええのん？

わかつとるくせに
いけずやなあ…

僕は生憎にぶい
らしいからね

ちゃんと
君の言葉で
ききたいよ？



もおっ！
せやったら
言つたるわっ

ハ
ハ

もつかいしよ？
お師さん

おれと
えっちなこと



ふふ

いいよ
上手に言えた
ご褒美だ

おいで
影片



毛

421



おんっ!!

おんっ!!





んああ大丈夫？
寝ぼけて
落ちたん？

てかお師さんでも
ベッドからおちること
なんてあるんやね



それとも
もしかして
足腰たたな

フフオツ



怒った？

ご…
ごめんなさい…

でも
どないした…

んあつ

馬鹿者ツ!!

っていきなり
何すんねん！
びっくりするやろ！

チツ



影片



君がまた

いなくなっただのかと思った



あ、 やって貰った...

テディベア事件のあと
お師さんは
はじめておれの前で
泣いた

あぁごめんな...
ごめんな
お師さん...



君が事故にでも
あつたんじゃないかって

今までおれの前で
泣いたことなど
ない彼は

いつ出て行っても
かまわないけれど

いなくなる時は
一言いってほしい

そうって
一筋美しい涙を流した

もう一度と
泣かせたりしないと
誓ったのに

おれがあんたから
離れられるはず
ないのにな

あ...



チツチツチツ
全くその通りだ
どうして一声
かけることが
できないの

だから君は
いつまでも
失敗さ…ッ



朝食？

おん

お師さん起きるまで
朝食でも
つくつとこかなって

たまにはーって
思ったんやけど
ごめんなー声
かければよかったわ

氣イ利かせた
つもり
やってんけど…



やっぱ怒って
くれへんのか？

んあ…

…っ…
いや…僕も
早とちりだった
すまなかったね



どつか具合
悪いん？

やっぱ無理
させてもーた…



お師さんの好きな
ミルクティーも
淹れたんよ

…せっかく
だけど
後にするよ

んああつ



なっそれより
朝ごはん
食べへん？

久しぶりやったけど
結構上手く
作れたんよ

お師さんにも
食べて
ほしーわあ



かなっ

なんやのもお
っっっ?

急におしたら
危ないやろっ

っとうわッ!!



それよりも

僕に心配をかけた
おしおきの方が
先: だろう?

おっ
おしおき!!

やっぱ
怒ってる??

なぜおしおきで
嬉しそう
なのだね...

君は物覚えが
悪いからね

ドキ
ドキ





僕がいいと言うまで
動くなと言って
いるだろうッ

やっやってえ
こんなんされたら
おれ...またっ
したなってまう...っ

おしさんのフエラッ



チッ
うるさいよ
影片っ



お師さんが
こんなっ

あかん...っ



またぶっ
倒れるでっ

大丈夫やないって!
あんた自分が
体力ないの
わかつとんのか!!

大丈夫だ

昨日三回もしたし
お師さん限界やろっ

そっそりや
したいのは
したいけど...



いいじゃないか
これからするんだし

えっ!?



君さ



あつあかんよ
そんなっ

なぜだね?
僕と
したくないの?





大丈夫？
つらいのん？!

だからアカン
ゆうたのにっ

う……うるさい…
のだよっ



お師さん？

う……っ…



めちやくちや
しまる…
気持ちええ…っ

あかん…っ

んあ



これは
おしおきだよ
影片

いや

んあ
不可抗力やあ

それに君さつきから
ダメだというわりに
立派にここを大きくして
まったく説得力ないよ



そ、それにこれ
おしおきとちゃうん

こんなん
おれにとつたら
ご褒美やで…っ

ぜんぜん
おしおきに
なつとらへんよ



覚悟するのだね
影片

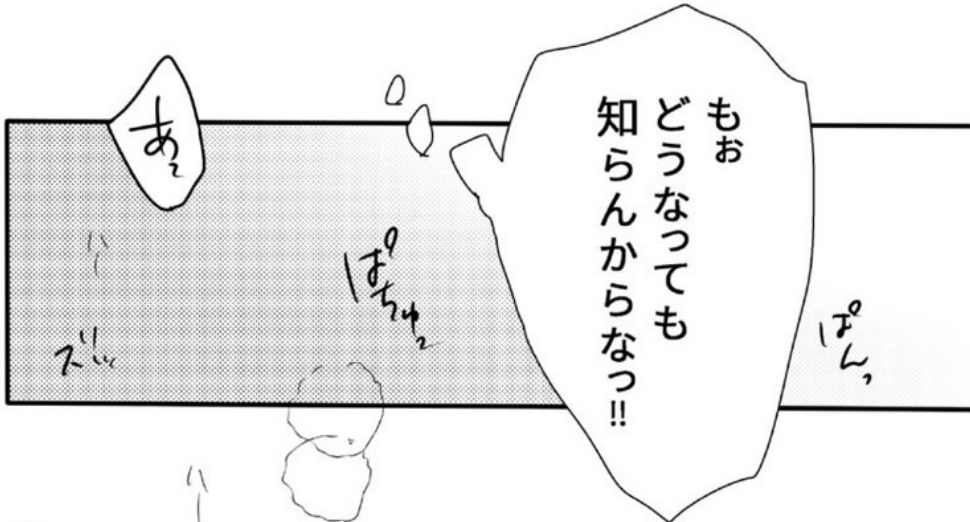
あーもう
こん人はっ!!

あっんあっ



僕の言うことを
聞かない罰だ

勝手に
動き出さないよう
君が根を上げるまで
搾り取ってやる



もお
どうなっても
知らんからなっ!!



ああッ





アツ
あああツ!!

おしさんっ



やめ...なくて...
いいから...っ

もっと

もっと



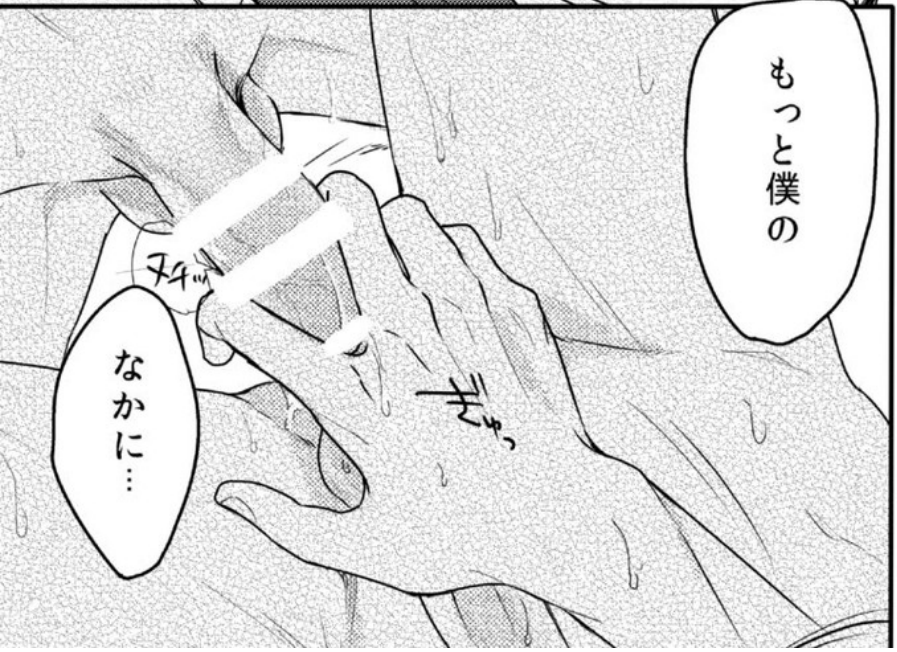
あつは...
か...かげひ...

おん

おん

おん

なに?
やめへんよ?



もっと僕の

なかに...



ちが...

フッ

フッ

あ



ふかく…

もっど

かげひーらっ

きゅーっ

僕を離さないで

まるでそう
言ってるかのよう
に
お師さんのナカは
おれをキツく
締め付けるものだから

おれは彼の望み通り
奥へ奥へと
注ぎ続けた



あつだめ
まだ抜くな…っ

グッ…

きゅーっ

ハッ



して…

こんなおれに
すぎるような
お師さんは
望んでなかった



まだ

もつと



今こうして

おれなんか
いいように
にされて



いつも強く完璧な
おれの神様
そんなお師さんが
好きなんだと思つてた

ふっ

っっ

そのはず
だったのに



あゝい
あゝい
あゝい

あゝあゝ

あゝあゝ





まるでその身体
全てをもつてして

おれを
離すまいとする姿が
あまりにも
必死で愚かで



そんなふうにし
か
甘えること
できない

この不器用な
ひとが

やっぱり
どうしようもなく



おれは



好きや...

いとおしい...



お師さん

この人にこんな行動をとらせてしまう原因を作ったのは間違いなくあの日の失踪だろう

ごめんなあ

またやりすぎてもうたなあ

だけど

幸運にもこの人の恋心を手に入れたおれは

ほんまに

ごめんなあ

このチャンスはこの人を逃すつもりはなくて

もう二度と離れるつもりもない

でもおれちゃんと言ったよな

責任とってや

ずっと
一緒やでって

お師さん
おれはまだ

あんたをこんな不安にさせてまう
出来損ないやけど

おれもちゃんと
成長するから

あんたを安心して
送りだせるように
ちゃんと考えとるから

あんたにこんなこと
させんでもええような
不安も何もかも全て
支えられる男になるから

おれの
モラトリアム



だからどうか

セックスは
あまり
好きではない

だけど腹のなかを
いいように
されるのは

いまだに
苦しきの方が
優っているし


もちろん快楽を
感じない
わけではないし

気持ちの良い行為
だということは
認めざるをえない

年下の男
ましてや自分の人形で
あるはずの影片に

足を開きまるで女のように
喘がされることに
抵抗を感じないはずがない






影片



だがそれでも彼に


君を離したく
ないからだ

抱かれることを
よしとするのは



君への恋心を
自覚した日

あの日



僕は怒りを覚え
そして君を
失うことの怖さを
知ってしまった

君がいないのに
変わらず
開けてゆく朝に

今まで散々
どこにでもゆけばいいと
言っていたのに

今さらそんなことと
君は笑うかね？

君が僕を
抱いているあいだ

少なくともその間は
君は離れて行かないと

このはらの中に留めておくため
この身を開くそんな師を

君はわらうだろうか？
失望するだろうか？

だけど
安心してほしい


君を

影片

羽ばたかせるための
準備は整いつつある



君が



好きだよ…

だから



僕の影片

それまでに
僕も覚悟を決めるから

君をちゃんと
羽ばたかせてみせるから

だからそれまでは

僕の
モラトリアム





もう少しだけ

もう少しだけ

僕のそばに
いてくれないかな

まっとうで
くれへんやろか

あと少し
もう少し

あと少し
もう少し

舞台がとこのうまで

必ず成長した姿を
見せると誓うから

まずは
そう…

せめて
そう…



返礼祭
までは
で

モラトリアムは
あと少し

君は KIMI HA
MORATORIUM

モラトリアム

テディベア後気持をたしかめあって
さらなる高みへのぼってゆくヴァもいいですが
基本的にあのふたりの足元のおぼつかなさを見ると
話し合って思い合うがゆえに
さらにすれ違ってしまふたりも
いるかもしれないと思って描きました。
返礼祭までまだひと悶着もふた悶着も
ありそうなヴァを見守りたい…。

『君はモラトリアム』
影片みか×斎宮宗

2017/12/29